

12月19日（月） 19時～
三木市農業振興講演会

地域の将来を考えよう！ ～農地管理を中心として～

兵庫県立大学環境人間学部 三宅康成

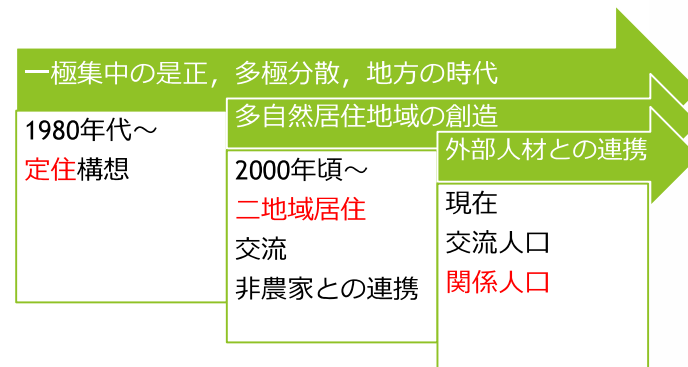
自己紹介

- 専門は農村計画，農業農村工学，地域環境共生学
- 地域づくり支援の原点
岐阜県高山市の小さな過疎化集落で...約25年前
過疎化，人口減少になやむ集落の「将来像」を考える
「集落の将来」に関して，「夢」の掘り起こし→[絵図](#)
- 地域づくりの最初の経験から
農地（水田）を守ることは地域の風景を守ること
住民の想いを聞き取る大切さ
地域資源を生かす大切さ
専門的な立場からの支援の必要性

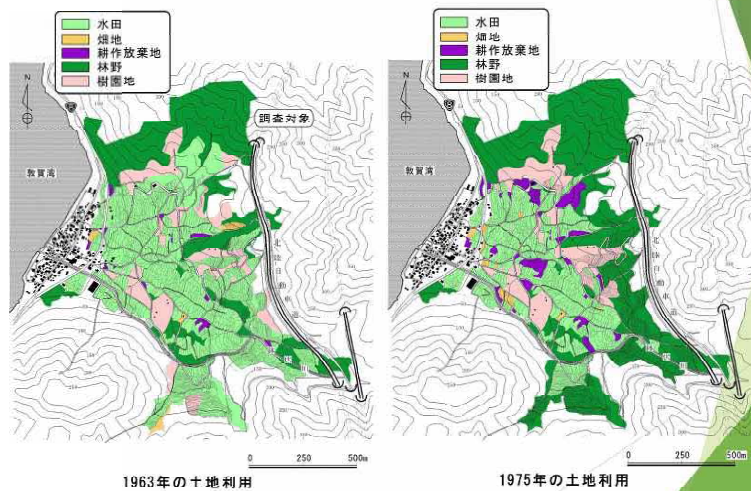
農村地域を見る視点

- 国土面積の90%は農村
・人口30%（兵庫県は23%）
- 社会の変化
・過疎化・高齢化の進行→後継者不在，人材不足...
・新型コロナウイルス感染症の拡大
・新しい技術の台頭（自動化，リモート...）
- 価値観の継続的な変化と多様性
・生活（子ども，環境），仕事（新たな農、産業），趣味 ...
- 地域づくり活動の普及・拡大，深化
・地域資源の保全・活用
・交流促進，観光開発，ビジネス展開...
・集落組織のあり方，人材の確保

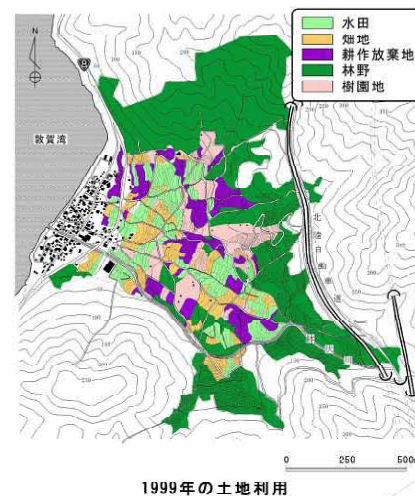
農村地域の位置づけの変化



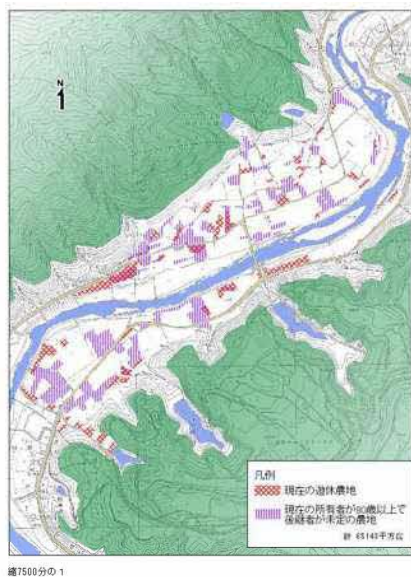
地区の土地利用の変化例 その1



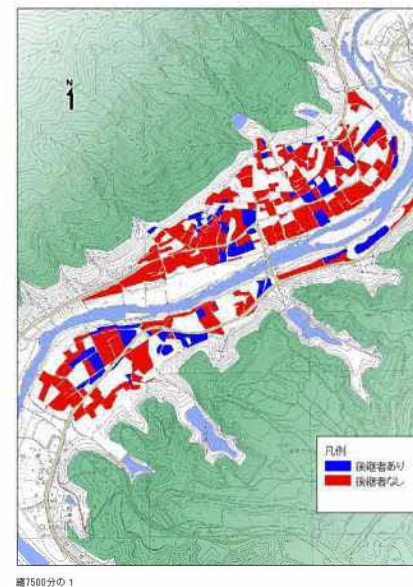
地区の土地利用の変化例 その2



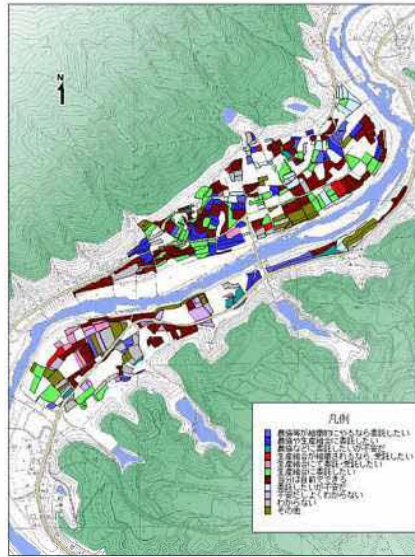
土地利用の現況 (例)



後継者の現況 (例)

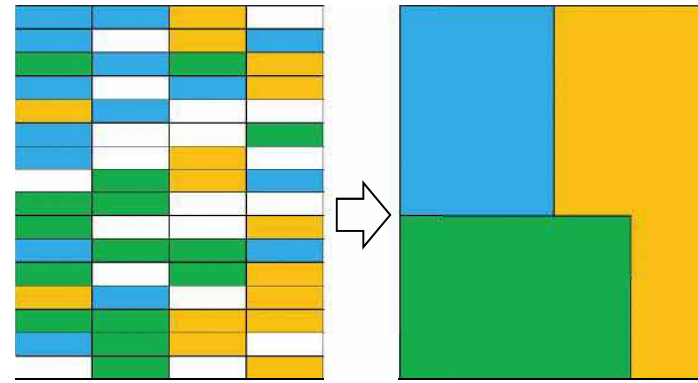


農地管理に対する意向（例）

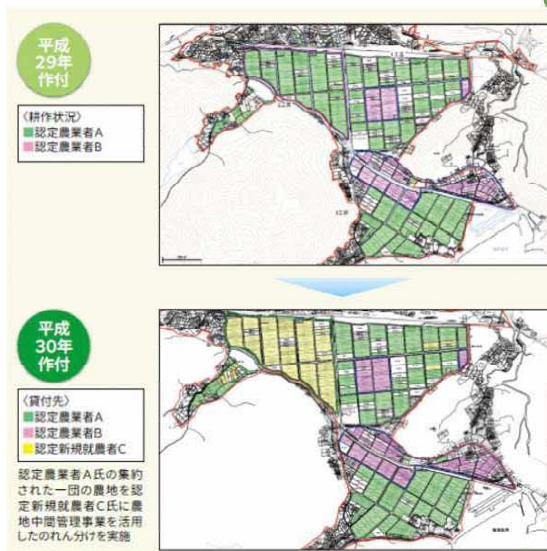


縮尺500分の1

農地集積・集約化

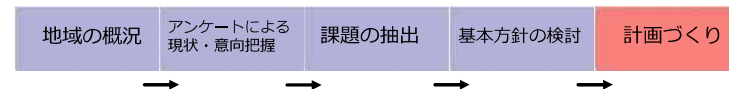


農地集積・集約化の例

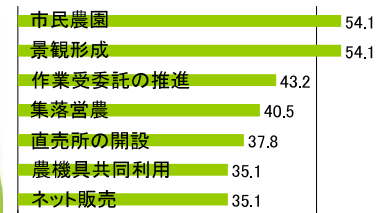


兵庫県資料から

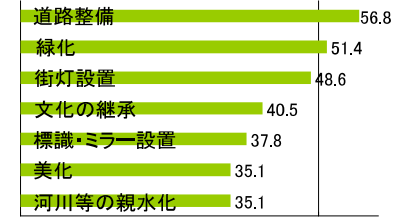
地区の将来を考えるプロセス（例）



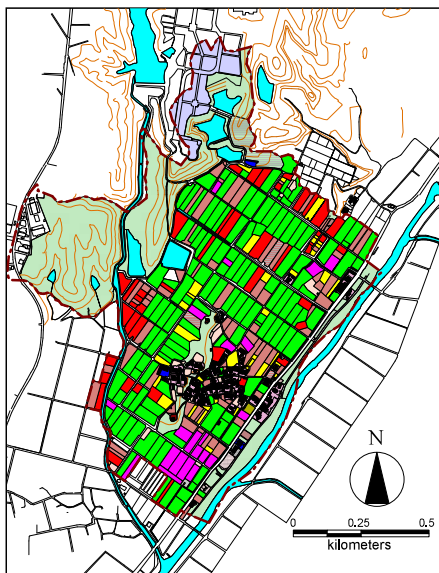
検討項目例（営農環境）



検討項目例（生活環境）



0.0 50.0 (%) 0.0 50.0 (%)

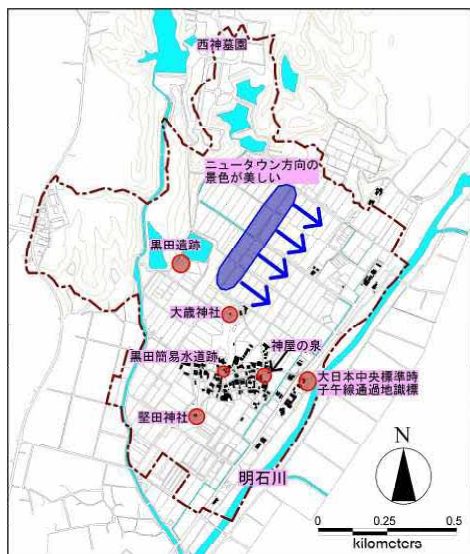


土地利用現況マップ (例)
(一筆単位)

地域の良いところ (例)

安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に1回の消防訓練で防火防災意識に役立っている ・危険意識が高く、自主対応が早い ・犯罪などなく暮らしやすい
人・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民との仲が割合まとまった地域である ・新年会、その他行事があり、人と人のつながりができている ・争い事が少ない ・月に1回の常会があり顔が見える (毎月28日) ・周囲の人々が優しい ・有線放送、防災無線が全戸に完備され、情報が素早く伝わる
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな生活、安全な暮らしができる ・管理されていない空き家がない ・道路端に落ちているゴミが少なく清潔な村である ・生活道路はすべて舗装されている ・婦人たち等により、公民館が掃除されていてキレイ
自然環境・歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に囲まれて空気がおいしい ・山あり、川あり、自然いっぱい ・水路を流れる水が澄んでおり、米作りに適した良い場所である ・米、野菜がおいしい ・継続した伝統行事があり、住民のコミュニケーション、見守りの機会になっている

丹波市の資料から



集落点検マップ (例)
(良いところ)

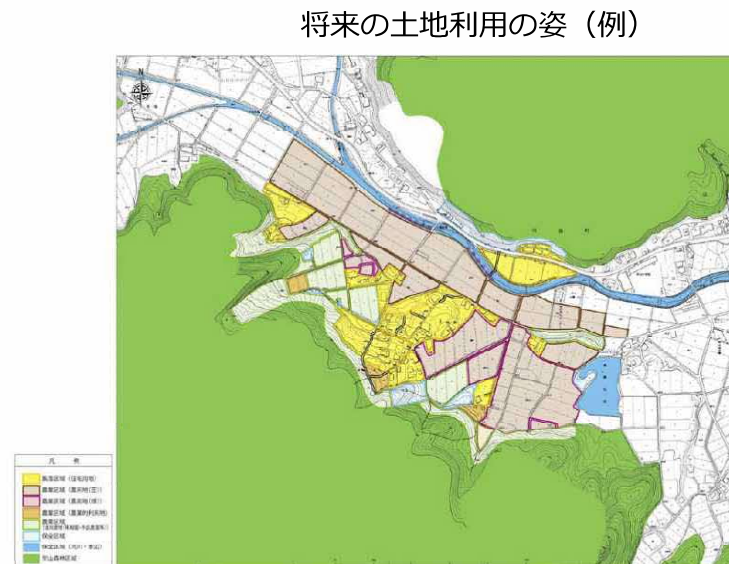
地域の課題 (改善箇所) 例

安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降った時に大水が山より落ちてきて怖い、社会資本の整備が急務 ・部落内の道路が狭く、曲がりくねり危険な場所がある ・夜間暗い所が多い、防犯灯の設置が必要 ・若者がいないため、消防団の後継者がなく、老弱男女でも対応できる体制が必要
人・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の高齢者が多く、特に一人で生活している人のチェックが必要 ・民家が分散しているのでコミュニケーションがとりにくい、集まりにくい ・若い人がいないので高齢者同士のコミュニケーションになる ・世代を超えたコミュニティが不足 (できない)
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・変形の四叉路があり危険、ロードミラーの増設 ・水がますくなった、公共上水道の改善が必要 ・買物に行くのが強い (商店がない) ・交通弱者に対するフォローがない、コミュニティバスの再運行が望まれる ・若者が少なく高齢化 ・高齢者が多い、若い人が帰ってくれたらなあと思う ・山の管理が不足 ・草刈りに手間がかかる ・排水路が狭い ・犬のフンを片付けられない、環境意識の改善が必要
自然環境・歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの行事が多い (多すぎる) ・農地で耕作放棄地、休耕田が多い ・農産物産出地域ばかりで農業以外何もできない ・災害の後、動物天国になっている。イノシシ、シカなど、日没とともに ・被害が多くて農業がしにくい ・ホテルの再生が必要 ・特産品がない ・農業に高齢者が多く、将来さらに離農者が増える、人と農地の活用が急務

丹波市の資料から



集落点検マップ (例)
(改善を要する箇所)



将来の土地利用の姿 (例)

土地利用の区分 (例)

大分類	内容	区域の細分類と定義	
農業区域	農業の振興を図るべき土地の区域	農用地	・将来も優良農地 (農業振興地域農用地区域) として農業の振興を図る
		農業的利用地	・現時点では農業が行われていない空き地や荒れ地などでも、将来的には農業の振興を図る
		活用農地	・市民農園や観光農園などに活用する ・一部の山地エリアは、農業的な利用をしつつ環境を守っていく (バッファゾーンとして維持管理、活用)
保全区域	大切な自然、歴史文化資源として守るべき土地の区域	・里山としての環境を守っていく (バッファゾーンとして維持管理、活用) ・川、水路、ため池など、大切な自然資源として守っていく ・社寺、文化財、墓地、仏壇公園、伝統家屋など、地域の大切な歴史文化資源として守っていく	
集落区域	将来の住宅用地として利用する土地の区域	・現状の住宅用地、宅地 (撤去、移転等の予定があるものを除く) ・将来、住宅用地として確保する	
森林里山区域	森林、里山として守るべき土地の区域	・森林、里山としての環境を守っていく ・土砂災害の危険性からの回避のため、各種整備事業を導入する	

丹波市の資料から

改めて、社会の変化に対して

■ 社会構造や価値観の変化

過疎化・高齢化の進行 → 後継者不在, 人材不足...
農業, 働き方...
地域づくりの取組の重要性

→ 持続可能な社会へ



何を守るのか?
何を变えるのか?
何を新たに創るのか?

美しい水田風景, 伝統や文化, 誇り, 郷土愛, 自然資源...

住民の皆さんの地域への意思 (想い) が問われています!